環境県民局 資　　　料	Ｎｏ．８

令和４年９月27日
課　名　環境県民局環境保全課
担当者　課長　岡田
内　線　２９１６

「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム（GSHIP）」の取組状況と今後の予定について

１　趣旨・目的

2050年までに瀬戸内海に新たに流出するプラスチックごみゼロを目指すため，関連する企業・団体等で昨年６月に設立した，「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム（GSHIP（ジーシップ））」*の取組状況と今後の予定について報告する。＊製造・流通・消費に関する企業・団体・市町等91者で構成

２　現状・背景

○　GSHIPには，①プラスチックの使用量削減，②流出防止，③清掃回収及び④情報発信の４つのワーキンググループを設置している。今年度は，６月末に第１回ワーキンググループを開催し，９月13日には，会員同士の連携・協働した取組のマッチングを図る「オンラインプロジェクト提案会」を開催した。

○　また，本年４月に施行された「プラスチック資源循環促進法」を踏まえ，県は，生活由来の海洋プラスチックごみ対策に資する先進的な取組を行う参画会員への支援（リーディングプロジェクト支援補助金）を行っており，順次，プロジェクトを開始している。

３　概要

(1)　プラスチック使用量削減（リーディングプロジェクト支援補助金）の取組

実施時期	連携企業・団体等	主な取組内容（概略）
R4.8～ 順次開始	三菱ケミカル， キリンビバレッジ， 全清飲，リコー， 大竹市　等	○飲料ペットボトルの３分別回収の促進及びラベルの水平リサイクルに向けた実証事業
	ダイセル， 宿泊事業者等	○海洋生分解性プラスチックの宿泊アメニティ等への採用推進，使用済み製品の回収及び回収物のカキ養殖パイプ等への再利用検討等
	ユニリーバ，イズミ， そごう広島店　等	○ポイント還元によるインセンティブを付与し，生活系使用済みプラスチック容器（シャンプー等）を店頭回収 （そごう広島店，イズミ２店舗からスタート）
R4.9.29～	Loop Japan, イオンリテール	○中四国初となる，容器再利用（リユース）による循環型ショッピングプラットフォーム「Loop」を県内イオン９店舗及びオンラインサイトで展開
R4.10上旬～	シンギ，TSS，食品メーカー，小売店　等	○お好み焼容器の代替素材化（バガスモールド製）の開発・導入・普及促進活動

(2)　流出防止の取組

実施時期	連携企業・団体等	主な取組内容（概略）
R4.10下旬	ICT関連企業，市町等	○IoTスマートごみ箱を活用した屋外でのごみ回収拠点の多様化に係る効果検証
R4.11以降	全清飲， 飲料メーカー等	○自販機横へのナッジを付加した新機能リサイクルボックス設置による周辺の散乱抑制・ポイ捨て防止に係る実証事業

(3)　清掃・回収，情報発信等の取組

実施時期	連携企業・団体等	主な取組内容（概略）
R4.8.31～	全参画会員	○海ごみ関連情報を一元的・統一的に集約した，ウェブサイトを新規開設
R4.10.4～24	そごう広島店外，参画会員13団体	○環境省「令和４年度ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業」採択事業として，そごう広島店を拠点に，海ごみに係る環境配慮商品の展示・販売や情報発信，環境学習等を実施
R4.11上旬	環境保健協会，中国放送，日本財団　等	○会員企業等による海岸清掃（尾道市・因島しまなみビーチ周辺にて調整中）

4　今後の対応

○　今年度の取組について，企業間や市町等と連携しながら，円滑に事業推進を図るとともに，取組の効果を検証した上で，成果や課題等についてプラットフォーム内で共有する。

○　引き続き，ワーキング会議において，新たな事業の掘り起こしや参画会員のマッチングを進めるとともに，効果的な情報発信を行って県民への意識醸成につなげていくことで，海洋プラスチックごみ削減に向けた取組の具体化を図る。

5　その他（取組の一例）

■ユニリーバ等による生活系使用済みプラスチック容器（シャンプー等）の店頭回収

回収ボックス

■中四国初となる，容器再利用（リユース）による循環型ショッピングプラットフォーム「Loop」

【Loop】従来使い捨てされていた日用消耗品や食品などの容器・商品パッケージを，ステンレスやガラスなど耐久性の高いものに変え，繰り返し利用を可能にすることで使い捨てプラスチックの削減を目指す循環型ショッピングプラットフォーム

返却ボックス

商品一例

■IoT スマートごみ箱を活用した屋外でのごみ回収拠点の多様化に係る効果検証

IoT スマートごみ箱「SmaGO」のイメージ

■海ごみ関連情報サイト　https://gship.jp/

トップページ